

令和 5 年度 墨田区立押上小学校 経営報告書

校長名 島田和久

学 校 目 標	○知・徳・体のバランスのとれた人材育成
目 指 す 学 校 像	○地域や保護者から信頼される学校
目 指 す 子 供 像	○挑戦する子 ○つながる子 ○働く子
目 指 す 教 師 像	○自分で考え、自分で判断し、行動できる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・ 改善方策	自己評価 について	改善策に ついて
		取組指標	成果指標			
各 教 科 等 指 導 等	○確かな学力を育てるため、分かりやすい授業を実施する。 ① 週案の作成及び提出	4	4	①週の指導計画」に本時のねらいを記入して提出する。 毎週月曜日に提出する。 ②全職員が学力向上プランを作成し、分かりやすい授業を行う。 授業観察で、全学級学力向上プランに基づいた授業を行う。 ③学級でICT機器を活用し、興味・関心を高める導入を行う。 通常授業で、ICT機器を活用した授業を行う。すみだタブレットの日は全学級で活用する。	A	A
	② 学力向上プランの作成	4	3		B	B
	③ ICT 機器の活用	4	3		B	B
	○特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援等を行う。 ①特別な支援が必要な児童について検討をする。	3	3	①校内委員会で、特別な支援を要する児童の支援について検討する。 毎月1回、特別支援CNを中心に校内委員会を行う。状況に応じて随時ケース会議を行う。 ②特別な支援を必要とする児童の「個別指導計画」を作成する。②特別な支援を必要とする全児童の「連携型個別指導計画」を作成する。 ③算数の補充学習として、週2回、「朝のステップ学習や放課後補習」を行う。 週4日、補充学習を行う。 (算数のDE層：35%以下にする。	B	B
	②個別指導計画を作成する。	4	4		A	A
	③補充学習を実施する。	4	3		B	B
	○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等を行う。 ① 幼保小中一環教育を進める。(教員)	4	4	①教員間による文花中、近隣小学校・幼稚園・保育園との交流を行い、保小中一貫教育を推進する。 連携による研究授業の実施。教員間の交流。を行う。 ②幼児、児童、生徒による交流を行う。 0中学校、幼稚園・保育園との交流活動を行う。	A	A
		3	3		B	B
	② 幼保小中一貫教育による交流を進める。(子供)	3	3		B	B

様式 4

○教員の指導力・授業力を高めるための組織的な取組等を行う。 ①情報活用能力に重点を置き「指導力向上、授業力向上」に努める。 ②初任者、2年次、3年次の育成を行う。 ③校内研修会を充実させる。	3	3	①校内研究「全教科」を通して、情報活用能力に重点を置き「指導力向上、授業力向上」に努める。 講演会・研究授業を年6回行う。 ②初任者、2年次、3年次の育成を計画的に進める。 月1回以上の授業観察を行う。 ③研究授業を活用し、校内研究の充実を図る。1回以上、模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。(校内OJTを進める。	B	B
	3	3		B	B
	3	3		B	B
○体力向上を図るための、体育授業、体育的行事等の取組を行う。 ① 全学級での取組を実践する。 ② 各学級での取組を実践する。 ③ 休み時間を使っての体力向上に取組ませる。	4	4	①全学級、体育授業で「押上かけとび運動」を行う。 ②体力づくり週間等を設定し、全校で計画的に取り組む。 ④ 校庭使用状況を確認する。	A	A
3	3	B		B	
3	3	B		B	
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力状況調査や墨田区学力状況調査において学区力が向上しているのは、教職員の努力の成果である。</li> <li>・表現運動発表会や学習発表会など工夫しながら新しい形の行事を行うことができた。</li> <li>・一人一台タブレットが配布され、授業の他に自ら興味をもったことを調べることができ、学習への意欲、思考力が高まってきている。参観する機会を増やしてもらいたい。</li> </ul>				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		自己評価について	改善策について	
		取組指標	成果指標			
生活指導等	○問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等を実施する。 ①生活指導夕会を活用し児童理解に努める。	4	4	①生活指導夕会等を活用して、児童理解に努める。 毎週水曜日、生活指導夕会を行い、具体的な対応策を共有する。(問題行動対応) ②「押上小さいじめ防止基本方針」に基づき、いじめを未然に防止する。 いじめ防止授業公開講座を行い、全学級いじめ防止授業を公開する。 ③不登校及び不登校傾向の児童や家庭への支援を行う。 登校の発生件数を確認する。	A	A
	②いじめを未然に防止する。	3	3		B	B
	③ 不登校児童を減らす。	3	3		B	B
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等を行う。 ① あいさつの習慣をつける。 ② 道徳授業を年 35 時間行う。	4	4	①自らのあいさつを習慣化する。 校時のあいさつの様子を確認する。 ③ 年35時間、道徳授業を行う。 道徳授業地区公開講座を行い、全学級道徳授業を公開する。	A	A
	① あいさつの習慣をつける。	4	4		A	A
	○安全を確保するための取組等を実施する。 ①安全指導を毎月行う。	4	4	① 安全指導を毎月1回行う。 月1回以上、生活安全・交通安全・災害安全の各項目について指導する。 ② セーフティ教室を各学年実施する。 年セーフティ教室を行う。	A	A
	②セーフティ教室を各学年実施する。	4	4		A	A

様式 4

学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの安全のため、登校班はこれからも継続していくべきである。</li> <li>・登下校時、元気よくあいさつできる子が増えてきているように感じている。引き続き指導をお願いしたい。</li> <li>・学校だけに任せるのではなく、家庭や地域の協力も必要である。</li> </ul>
---	--

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	○経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営を実施する。			①学校経営方針に基づいた自己申告書を作成させ、面接を年3回行う。全教職員、学校経営方針を基に自己申告書を作成し、年3回面接を行う。 ②校務組織を改善し、校内体制を整える。 校務の進行管理を確実にし、「報告・連絡・相談・確認」を徹底する。校務分掌の各責任者が一工夫一改善ある提案を行う。	A	A
	①学校経営方針に基づいた自己申告書を作成・提出する。	4	4			
	②校務組織を改善し、校内体制を整える。	3	3		B	B
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等を行う。	4	4	行事ごとに評価を行うと共に、学校関係者評価を（2月）を行う。校関係者評価等を受け、迅速に改善策を作成し、その都度改善を図る。	A	A
	○教育環境・設備等の整備状況等を確認する。			①校内外の安全点検を通して、教育環境・設備の充実に努める。毎月1回の安全点検を受け、迅速に対応する。 ②学校配当予算を計画的に活用する。申請・決済・執行の手続きを確実に。会計事故を起こさない。（7月、10月、3月に確認）	A	A
	①校内安全点検を行う。	4	4			
	②学校予算を提示し、計画的に活用する。	4	4		A	A
	○組織的な人材育成を行う。			①校内OJTとして、教職員の指導力向上を目指した研修会を行う。主幹教諭をOJT担当者とした授業観察や校内研修会を計画的に行う。 ②服務事故の未然防止のための研修を計画的に進める。都や区の服務事故防止研修を毎月実施する。（都2回、区12回）	B	B
	①校内OJTとして、教職員の指導力向上を目指した研修会を行う。	3	3			
	②服務事故の未然防止のための研修を計画的に進める	4	4		A	A
○教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等を実施する。			①学校経営方針や日常の教育活動を報告する。PTA 役員会、学校運営連絡協議会、民生児童委員等との連絡会で、学校経営方針・日常の教育活動を報告する。 ② 学校だより・学年だよりをCOCOO やホームページ等により、日常の教育活動を積極的に公開する。	A	A	
①PTA 役員会、学校運営連絡協議会、民生児童委員等との連絡会	4	4				
②学校だよりホームページの情報公開	4	3		A	B	
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート自由意見がたくさん出ているのは関心の表れ。このことを大切にしたい。</li> <li>・働き方改革の観点からは、データでの集計を続けるのはよい。</li> <li>・学校評価の回収率低下については、紙での回答の方が良い保護者もいるのではないか。</li> <li>・学校だより・ホームページ等</li> </ul>			

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			

様式 4

家庭・地域連携	○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進を進める。 ①地域見守り隊による登下校の見守り活動に協力する。	4	4	① 地域見守り隊による登下校の見守り活動に協力する。  下校の見守り活動に協力する。	A	A
	②地域人材による放課後子供クラブの運営に協力する。	3	3	② 地域人材による放課後子供クラブの運営に協力する。 放課後子供クラブの運営に協力する。	B	B
	③地域人材を活用し、ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。	4	4	③ 読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行う。 ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。	A	A
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、保護者や地域と連携して教育活動の充実に努めている。</li> <li>・コロナ禍で地域行事やPTA行事に制限があったが、工夫した活動を行えた。</li> <li>・アンケートで「わからない」という回答が減り、肯定的評価が増えたので安堵している。</li> </ul>				

2 令和5年度学校評価のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育目標「挑戦する子」「つながる子」「働く子」の実現に向けて取り組み、地域やPTAに対して学校経営方針をわかりやすく伝え、理解していただき、多くの方々にご理解、ご協力をさせていただいた。学校評価では、「教育方針や教育活動の説明」の項目で90%以上の肯定的評価を受けた。今後も継続して分かりやすい教育活動を展開していく。</li> <li>・学力向上に向けて取り組みでは、学習習慣の定着を図るための「振り返りシート」の活用、放課後の補習学習、家庭学習の定着に力を入れてきた。日々の取組の成果が区学力調査の好結果に繋がった。全学年、全国水準、またはそれを5～10ポイント以上、上回る高い数値が見られた。各学年、学力の安定した定着が見られてきている。今後も、学力向上推進委員会を中心に学力向上へ取り組みを進め、児童一人一人に学びの喜びを実感させていく。</li> <li>・学年主任を中心に授業力向上に取り組んだ。学校評価では、「教職員の資質の向上」の項目で89%以上の肯定的評価を受けた。教職員の授業力向上から児童の学力向上につなげていきたい。</li> <li>・学校評価では、「あいさつ」の項目で75%以上の肯定的評価であり前年度より5%以上向上した。教職員と児童があいさつ運動に前向きに取り組み成果を上げることが出来た。地域、保護者の皆様もとても協力的である。今後も学校と地域、保護者の連携を大切にして児童の育成に取り組んでいきたい。</li> </ul>
--

以上の通り報告いたします。

墨田区立押上小学校 校長 島田 和久 公印